

6. 学会講演での書画カメラとプロジェクタの原稿について

最近数学会の年会や秋季総合分科会の講演での書画カメラやプロジェクタの使用が多くなってきました。有効に使えば、限られた時間の中でも良い発表ができます。

ただその一方で、逆効果も少なくありません。得られた成果を全部発表しようとする余り、時間に比べてあまりにたくさんの講演用シートを準備し、その結果次から次へとシートが変わって、聴衆は何もわからないことがしばしばあります。また、1枚のシートに小さい字で一杯書いてあって、前の方に座っている人ですらよく見えない、というのもよくあるケースです。

講演内容にもよりますが、講演用シートは大体3分間に1枚が目安ではないかと思われます。遠くから見ることを前提にすれば、1ページあたりの行数は8行程度が適当でしょう。

書画カメラやプロジェクタを使用する場合、記載内容を絞り込み、図表の利用など工夫を凝らしたシートを準備すると、印象深い講演を行うことができます。詳細な数式は講演シートには書かずに予稿集を参照してもらうなどしてみたらいかがでしょうか。また、これは人によりますが、講演用シートは手書きの方がかえって読みやすい、ということもあります。

TeXを利用すると確かにきれいなシートができますが、100人を越える教室での発表の効果は20人程度の研究会の場合とは異なります。予稿集と講演用シートは同じではありません。

大学院生をはじめとする若い会員の皆様にとっては学会講演が特に大切な発表の場でもありますので、講演用シート作成について予めよく考えていただくことを、ここに敢えてお願いする次第です。